

学 校 名	愛知県立古知野高等学校		
派 遣 日 時	令和5年11月2日(木)8時55分～9時45分		
対 象 者	高校1年生(169名)・教職員(14名)	派遣時間	50分
外 部 講 師	江南厚生病院 看護師 宇根底亜希子		
設 定 場 面	保健講話		
テ ー マ	がんについて考えよう		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がんについての基礎知識を確認し、緩和ケアについて理解を深める。</li> <li>・自分ががんになった時や、周りの人ががんになった時、どのように周囲の人と関わるとよいか考えるきっかけをつくる。</li> </ul>		
実 施 内 容	<p>【事前の準備・打ち合わせ等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健の授業であまり扱えていない「緩和ケアや共生」についてや、がん患者やその家族の心の変化について教えて欲しいと講師に依頼した。</li> <li>・配慮する生徒がいるかの確認は保護者宛に文書を配布した。</li> </ul> <p>【当日の概要】</p> <p>がんについての基礎知識  緩和ケアについて  がんの理解と共生  がん患者や家族の心の変化について  がんを体験して感じたこと・伝えたいこと</p>		
成 果 ・ 感 想	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の復習と不足事項の補足ができた。</li> <li>・講師の方が担当された患者様のお話を伺うことができ、がんについての理解を深めることができた。</li> </ul> <p>【今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緩和ケアや共生について、教員では十分話せない内容であるので、専門の方からお話を伺う機会を今後ももちたい。</li> </ul> <p>【感想・写真等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前半でがんについて基礎的なお話をしていただき、後半に講師の先生が体験されてこととお話していただいたが、がんの復習に時間がかかり、予定時間を超過してしまった。授業で学んだ内容の復習もきちんとさせたいと考えたが、50分では足らなかったため、内容の精選が必要だと感じた。体験に基づいたお話は聞く機会がないので、がんに対する考え方を深めるきっかけになったと思う。</li> </ul>		

学 校 名	愛知県立古知野高等学校(定時制)		
派遣日時	令和5年11月20日(月)17時30分～18時20分		
対 象 者	高校1年生(20名)・教職員(3名)	派遣時間	50分
外 部 講 師	江南厚生病院 看護師 宇根底亜希子		
設定場面	特別活動 HR		
テ ー マ	がんについて考えよう		
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらい①がんと生活習慣は関係が深いことから、自らの生活習慣を振り返り、生涯にわたって健康に過ごす意識を高める。</li> <li>・ねらい②定時制の生徒はアルバイトなどで学校以外の社会と接する機会が多いため、がん共生社会の中で生きていくうえで必要な正しい知識をつける。</li> </ul>		
実施内容	<p>【事前の準備・打ち合わせ等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がんと生活習慣との関係、がんとの共生を重点的に伝えたいという講話の目的を伝えた。</li> <li>・カリキュラム変更に伴って、保健体育科の単元の中にがんについてが追加されているので今年度授業で行われた内容を伝えた。</li> <li>・10月30日に、対象生徒(1年生)へ事前アンケートを行った。</li> <li>・資料は、事前に講師の方からメールで頂き、生徒・教員分を印刷準備した。</li> <li>・対象生徒(1年生)へ「がん教育を行うこと、身近にがんと闘っている人がいる場合辛い思いをするかもしれないため、無理をせず担任か養護教諭に申し出ること」を案内した。</li> </ul> <p>【当日の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校長室にて顔合わせ後、会場である1年生教室でパワーポイントの動作確認を行った。</li> <li>・教頭による講師紹介の後、17時30分～18時20分までご講話いただいた。</li> <li>・講話後の総合的な探究の時間(2限目)を使い、感想の記入、事後アンケートを行った。</li> </ul>		
成果・感想	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前/事後アンケートで大きな変化のあった項目は、【自分のがんにならないと思う】で「そう思う」が3名から0名になったことと、【がん検診を受けられる年齢になったら、検診をうけようと思う】で「そう思わない」が1名から0名に「そう思う」が11名から13名になったことの2点だった。がんが他人事ではなく自分にも起こる可能性があることを考えられ、早期発見の重要性に気づけた様子である。</li> </ul> <p>【今後の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講話の内容と感想をまとめ「保健だより がん教育特別号」として全校生徒への配付及び学校HPに記載予定。</li> </ul> <p>【感想・写真等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話を聞いて普段がんの可能性について考えたことが無かったけど健康な人でも50%の確率でなってしまうと知って、健康に生きていきたいと思った。</li> <li>・緩和ケアは死ぬのを待つことではなく、病気や治療によっておこる身体や心の辛さを和らげるケアという事を知った。</li> <li>・講話を通して、がんになる原因やがんは意外と身近な病気ということが印象的だった。自分もがん検診を受けようと思います。</li> <li>・がんについて沢山の知識をつけることができました。一番心に残ったのは、がんは手術してから10年間は薬を飲み続けなければいけない、ということでした。「がんと共に生きる」という言葉がより大事なんだなと感じました。命の大切さや尊さを改めて感じる事ができ自分も悔いのないように周りに感謝しながら生きていきたいです。</li> <li>・今までがんについてなかなか知る機会がなく、詳しくわかりませんでした。今回の話で知ることができました。自分もがんにならないために生活習慣を整えたいです。</li> <li>・父の家族ががんによって亡くなる事が多くて、父自身も「がんで死ぬ」と言っている。自分もがんが苦しみながら死ぬのかなと思っていました。でも早期発見・早期治療をすれば助かる可能性が高いと聞いて安心しました。がん検診は受けたいと思いました。</li> </ul>		